

**「沖縄を元気にする農業ブランド」プロジェクト第3回
“農業を主体に、若者と高齢者による持続可能な地域活性化を目指す”シンポジウムと座談会
活動報告**

1. 日 時 平成22年7月31日(土)午後1時半～4時
2. 会 場 沖縄市中央公民館研修室
3. 参加費 無料
4. 内 容 農業を主体に、若者と高齢者による持続可能な地域活性化を目指す
5. パネラー
渡真利 毅 氏 農業生産法人(株)ちゃーびら 代表取締役
今木 ともこ 氏 NPO沖縄シニアの会 事務局長
6. コーディネーター
近藤 正隆 NPO法人 ウヤギー沖縄 理事長
7. 参加者 約60名

平成22年7月31日(土)、沖縄市中央公民館研修室にて「沖縄を元気にする農業ブランド」プロジェクト第3回“農業を主体に、若者と高齢者による持続可能な地域活性化を目指す”シンポジウムと座談会を開催しました。シンポジウムは、農商工連携プロジェクトが進行する中、さらなる賛同者を募り、意見交換を行うことを目的としており、農業生産法人(株)ちゃーびら代表取締役の渡真利毅氏とNPO沖縄シニアの会事務局長今木ともこ氏をパネラーとしてお招きしました。



シンポジウムの様子とテーブルを囲んだ座談会の様子

シンポジウムはまず、コーディネーターである近藤正隆氏が農商工連携の基本的な枠組みと活用法について紹介し、過去に行った東京での企画販売会での実績から、きちんとブランド化すれば沖縄の農業も振興すると強調、プロジェクトへの参加を広く訴えました。

次にパネラーの今木ともこ氏が、所属する NPO 法人で高齢者の生活自立支援をしている経験から、生活の中に楽しく農業を組み込み、皆で生きがいを感じながら、ビジネスとしても成り立つ農業のあり方について紹介しました。事例として、高齢男性が農作物を生産し、これを高齢女性が調理して地元の伝統食として提供する店舗の取り組みを紹介。生産と加工、消費が一体となることが重要だと訴えました。

パネラーの渡真利毅氏は自身が生産し、ブランド化した商品として販売している「チャーびら菜」を例に、作物をブランドとして商品化するプロセスと販路を開拓した経験、そして商品の安定供給へ向けた試行錯誤の取り組み、生産者と販売者との連携での適正価格の設定が難しいことなどを紹介しながら、3Kで嫌がる若者をどう引き込めばよいか？やり方によっては一般の就労よりも儲かるはずだと、ブランド農業の可能性を訴えました。

パネラーによる講演の後に、参加者全員による意見交換会が行われ、活発な議論が交わされました。